慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	一宮市史(一宮市役所編並に發行)
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1939
Jtitle	史学 Vol.18, No.1 (1939. 9) ,p.184- 184
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19390900-0184

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

本書は尾道市の市制實施以來四十周年を迎えし記念として世に贈られし意義あるもので、上卷に於ては前篇の概説篇にて、市の沿革を摘記し、後篇の各篇に於て、地誌・港灣・交通・宗教の四篇を詳記してある。中下の兩卷は未刊なるも、政治・經濟・學藝・社會・衞生・故家人物の各篇を收め、更に古文書其他の資料を附録として追加せらるゝ豫定なりと云ふ。猶ほ上卷の宗教篇中に收録の淨土寺文書は同寺の往時に於ける隆盛の狀を物語る史料で再讀に價する。

終に、中下兩卷の上梓を待望し、編者青木茂氏の筆勞に敬意を表するものである。

昭和十四年七月卅一日　武田勝藏

一宮市史（一宮市役所編並に發行）

愛知縣一宮市は、尾西平野の交通至便の地に位し、本邦屈指の機業都市である。當市は、こゝに鎭座の尾張一宮なる國幣中社眞淸田神社を中心として發達した都市である。當市の歷史は眞淸田神社の沿革と離るべからざるものである。同神社の創祀は悠遠の昔にして既に延喜式には各神大社として記載され、祭神は尾張の國造の祖神なる天火明命で、鏡造の遠祖眞淸田大神として尊崇せられて居る。後、大化改新により國造政治の國司政治に改められし以來、大巳貴神を祭神とせられたこともある。それは諸國に一宮が定められ、多く大巳貴命を其の祭神としたことと、當地方に三輪氏が繁榮し、その祖神なる同命を以て祭神と改められし爲めならんと云はれてゐる。然し神威には何等變ることなく、朝野貴賤の尊信は極めて深厚である。

因に、尾張の國守として令名あつた大江匡衡の妻赤染衞門の如きは、本社に祈願を凝めて農民の爭議の鎭定を請うたこともあり、農業の守護神として參詣する農民も群集したと云ふ。

當市は平安朝の昔より農耕の傍ら機業を營んで居つたもので、後、織物の產地として知られ、戰國時代には、一時關氏の居城の地となつたが、寬永以後は、尾州藩の直轄領として重用され、明治維新に及び、大正十年に市制を實施し今日の隆昌を見るに至つたのである。

本書は市民に溫故知新の資料として贈り、又、學界に寄與する爲め編纂されたもので、上下二卷より成り、上卷に、總說・沿革・行政・司法警備・教育・兵事及び產業中織物の部迄を收め、下卷に產業中三八市場以下及び交通・社寺・名蹟・人物・文藝・風俗・雜載並に附錄として史料・金石文・年表・索引を收め、猶ほ附圖五葉を添附し、各編の敍述は極めて周到にして、概ね各項末にはその引用書を掲記してある。

終に市民諸賢の本書を繙き當市の歷史を顧み先賢の遺業を彌〻繼ぎ、當市將來の發達に益協力し、大一宮市建設に邁進せられむことを切望すると共に、編纂者若山善三郎・森德一郎の兩氏の勞作に對して敬意を表す。

昭和十四年八月五日
暴風雨の警報を聽きつゝ　武田勝藏